彙　報

◉京都帝國大學文學部國史專攻學生の中國及九州地方研究旅行

京都帝國大學文學部國史專攻學生の研究旅行は一昨年關東地方に試みた後をうけて、昨秋は中國及九州地方に行ふことゝなつた。三浦西田兩教授、中村講師の外、學生十四名（肥後、山根、小野、六人部、藤、小葉田、天野、三品、柴田、石塚、原、津川、藪田、安藤）外に源氏は廣島まで、渡部學士は今津まで行を共にした。往復十日、到るところ或は古文書古記錄の採訪に、或は古美術の鑑賞に、或は史蹟遺物の調査に、何れも豫期以上の收穫を擧げることが出來た。今例に依つて茲にその梗概を叙することゝする。

十月十六日、午後九時四十分、京都驛發。西下の途に就く。

十七日、晴。午前七時五十八分廣島驛着。直に淺野侯爵の泉邸に向ふ。こゝでは侯爵令孫長武學士の手によつて重もなる古文書、書畫の類が豫め選定されてゐたのを展觀し、更に二三の出陳を煩した。古文書の中では永樂六年十二月二十六日明の成祖が將軍義持に對して父義滿の志を繼いで海賊を殄殲すべきことを望んだ勅書が見るべきものゝ隨一であつたが、その外にも七月二十三日（文祿元年）附で會寧に於いて朝鮮王子を生擒にしたことを報じた加藤清正の書狀や、秀吉家康の自筆の書狀、五大老五奉行の起請文など何れも印刷の淺野家文書で見たのと變つた興趣をそゝつた。記錄類では幸長蔚山籠城覺書以下朝鮮役に關係あるものが多く、中に地名に一々朝鮮音を施し、且つ日本よりの里數を明記したものゝあつたのが注意された。幸長所用の鐵砲並に船印などに興味を惹く。長政及同夫人並に幸長の肖像何れもよく其風貌を傳へてゐると見えた。その他には明兆雪舟等の外、支那畫の優秀なるものも亦多く、中にも夏珪の山水樓閣圖、趙昌の林檎圖の如き支那畫の極致を示したものもあつた。觀古館は淺野家所藏の書畫、工藝品の類を陳列して一般に公開されてゐるもの、支那の古銅器類、陶磁器、

蒔繪類目貫、小柄等の彫物等に逸品が少くなかつた。

正午過ぎこゝを辭して廣島高等師範學校附屬博物館に向ふそこには吉田廣島高等師範學校々長諸教授を中心に德育專攻科の學生諸君並に廣島高等學校同高等工業學校の一二の教授達も加つて一行を歡迎された。

一行はそれより電車で嚴島に向つた。秋の空高く澄み渡つて海の色あくまでも蒼く、心氣の爽快得も言はれぬ三時四十分嚴島に着く。嚴島神社では宮司菊池武文氏に導れて正式參拜を行ひ、回廊、舞臺等を一巡したが、寶物の拜觀は翌日に讓つて、先づ大願寺に赴き、直に所藏の古文書を閲覽する。當寺は島中一切の社殿堂塔の再建又は賁替のことを管轄したのみならず、管崎、宇佐等もその管下にあつたからそれらに關したものが多い。天文二十一年二月二十八日の掟書(寫)に當島に見世屋敷を出しうるものを當町人に限り、諸廻船の着岸碇泊を禁じ、又それらの廻船に對し警固米を徵收するを禁止する等の諸條項が見えてゐるのは興味深く覺えた。その他大内、毛利兩氏の文書甚多く、殊に元就、輝元、隆景等の書狀には自筆も少くなかつたが、暮れやすい秋の日の沒し果てゝからも、尙燭光の足らない電燈の下で讀み續けた後一と先づうち切つて紅葉谷なる岩惣旅館に投じた。

十八日、晴。午前九時再び大願寺に赴いて前夜見殘した古文書類の調査を完了した。天正十五年三月十八日附の安國寺惠瓊の書狀に秀吉が塔ノ岡に經堂を建て一月に一度千部經を讀誦させる爲に一萬石を寄進する旨を報じたものを始、天文二十年正月二十六日附で大内義隆の袖判を請うた圓海の書狀中、嚴島社領を列擧した中に、前大願寺屋敷 寺僕十五人居住 云々と見えてゐるのも面白い。ほゞ同時代に於いて京堺の商人がこゝに着岸毎に駄別錢を課せられるのは甚謂無きことであるとして其停止を請ひ禮錢として萬疋を調進すべき旨を述べてゐるのは頗る注意すべく、當時に於ける通商運輸の狀態を窺ふに極めて興味ある史料と云へる。これらの重なる文書を寫眞に收めて後、國寶釋迦如來、阿難、迦葉二尊者を拜して、嚴島神社に至る。

寶物館に安置された國寶狛犬、同木造飾馬、同文台硯

箱の類は皆優秀な工藝品であるが、素朴な繪額に却つて興味を惹くものが多く、就中天文二十一年泉州堺住人綾井九郎左衛門尉定友の牛若辨慶の繪額は種々の意味に於て感興を唆るのである。小さな金燈爐に正平二十一年三月三日、筑前博多の講衆等が連名寄進の旨を刻してゐるのも亦注意に上つた。承安三年の銘ある舞樂面の如きは當社をおきては多く見られぬものであらう。拜殿の廂の間で有名な平家納經を拜觀する。御判物帖二帖の中には美事な天皇御璽の押された永保三年六月七日並に承安二年二月二十八日の太政官符、印文不明の方一寸餘の小印が四個所に押された治承三年十一月日の入道前太政大臣家政所下文、異國降服の爲諸國一ノ宮へ劍馬を進め大般若經轉讀を命じた正應六年二月十一日の御教書等堂々たる文書が相次いであらはれ、古來貴顯の信仰の厚きは實にもと思はせた。棚守房顯の手記は戰國時代當地方に取つての貴重な記錄の一つとしてよく引かるゝものであるが、原本丈に一入感興が深かつた。五重塔、千疊閣等を巡歷して島を辭し、午後二時六分、宮島驛發。夜に入つて湯田温泉に着く。

十九日、晴。午前七時三十分出發、山口縣廳及び鐵道省山口建設事務所の好意によつて差向けられた三臺の自動車に分乘して市中の各所を巡歷した。先づ山口高等學校に赴いて、聖ザベリヨ記念碑除幕式を機緣として催された基督教關係史料の陳列を見る。ザベリヨの肖像數種長崎圖書館の出品にかゝる一六三二年版以下の歐文和文の傳記等はこの展覽の主體たるべきもの、大道寺の名の見える山口古圖(寫)は今回記念碑建設所の決定に最後の根據を與へたものであるが猶多少の研究の餘地がある。常に此種の標本として取扱はれる元祿六年正月の八幡町邪宗門ころび宗旨改帳は原本が長崎縣立圖書館から出品されてゐた。細川忠利並に光尙の羅馬字印の押された書狀は、生田氏の所藏で、今回始めて世に出でた珍しいものである。一行はこゝで特に一行の爲めに取寄せられた同氏の古文書を披いた。其祖經尙の時に秀吉に仕へて始めて生田氏を稱してから、天正十三年には千石、同十五年には五百石加增、同二十年正月には更に千石の加增をうけ

秀次の死後浪人となつたが、子又助に至つて細川忠利の小姓となり、島原役に功があつて二百石の加增をうけたこと抔の事實が知られる。それらの古文書の中には天正十九年十一月二十八日の從五位下の口宣案なども見えた又五月二十七日附細川忠利の書狀の案文の中に筑後立花家から招いた醫師が切支丹者いるまんと申者の由で捕へられ長崎へ送られる筈であつたが、病氣故若し死去すれば鹽につけて送りとゞけられようといふことを述べた文言のあるも面白い。

一行はそこを辭して教育博物館に向つた。一行の爲に特に陳列されてゐたものゝ中先づ目にとまつたものに、五月十七日附で毛利元就に宛てゝ「彌々以於無別儀者終身不可存隔心、然上者內外共萬般憑入候」との旨を述べた大內義隆自筆の書狀などがあつた。八幡燒と稱する明風の壺並に大內切れの名ある明朝織の金襴は共に大內家が勘合船を出して明と貿易した頃の遺物かと想はれ、當時に於ける山口の繁榮も偲ばれた。普通の陳列品の中には諸種の防長鄕土史料があつたが、殊に維新記念室の陳列品は本館が特に意を用ひて蒐集したもの丈に今更ながら幕末維新時代に於ける長藩の重要なる地位を痛感させた。

博物館を出でて徒步で龜山公園に登り、教育博物館長作間久吉氏の說明を聽き地勢を按じて大內時代の山口の跡を追懷し、それより車上の人となつて瑠璃光寺に赴き舊香積寺の五重塔の輕快なる結構を嘆美し、觀音寺に大內盛見の墓を展し、法泉寺の遺址をも望見した後、正午に近く山口縣立圖書館に至る。折しも秋季曝涼の爲閉館中であつたに拘らず館長厨川肇氏は一行の爲に大內時代に關する古記錄古文書の類を豫め選擇陳列して待ちうけられてゐた。陳列品の主なるものに、防長古文書誌、毛利氏寶藏文書考證、正閏史料、大內氏實錄引用書以下近藤淸石の著書數種等があつたが、これらの外最我々を喜ばせたのは氷上山興隆寺の文書である。明應三年の箱書に「當山每年修二月會、大頭差文同步府舞童屈請等之記、並御寄進狀奉書以下之事、年々分至當年者被寫置山口殿中文庫訖、於後年者祭例翌日爲執行坊役案文悉可被調進之由

被仰出畢」云々の文によつて略その内容を窺知することが出來るが、時代は大略南北朝頃からで、足利直冬の御教書以下に正平の年號のあるのは注意すべく、至德三年の大内義弘の寄進狀に見える別の宿願による旨の果して何を意味するかは問題であらう。大内義興、義隆二代間の差文、寄進狀の類は文龜、永正、大永、享祿、天文、弘治の各年に亙つて、連年出されてゐるから、一卷の中で兩人の花押の變遷が最明瞭に跡づけられるのは何寄うれしかつた。應永の頃から足利氏の將軍以下有力なる諸大名が朝鮮に大藏經を求めたことは有名な事實であるが應永十四年四月大内盛見が朝鮮國政府へ大藏經を申請ける爲に遣した書狀の案文は珍らしいものであつた。猶當興隆寺に於いて文明延德の頃版を起し、元龜天正の頃補正したといふ法華經は、八枚の版木と共に完全に儼存してゐるが、所謂大内版の濫觴をなすものとして寔に貴重な遺物である。

八坂神社に褻して築山館の石垣を叢の中に探り、豊榮野田兩神社より今八幡に出で、こゝで妙福寺舊藏の寶物二三點を見、轉じて數日前除幕されたばかりの聖ザベリヨ記念碑建設地に赴き、其の豊碑を仰いで今更ながら日本西教史の一節を想起させられた。午後二時四十分、終日行を共にされた西田山口高等學校教授、弘津同校囑託縣學務部の岩根又重の諸氏に送られて山口を發し、九時二十五分博多に着、旅順館に投じた。

二十日、晴。是日は先づ福岡縣立圖書館に赴く。館長伊東尾四郎氏は一行の爲に特に用意された陳列品に就いて說明された。天保の歌人大隈言道、その門人にして幕末女流勤王家として有名なる野村望東、小倉の國學者西田直養、徂徠の學を修め詩文に秀でた儒醫龜井南冥、昭陽父子等濟々たる藩内名家の肖像、墨蹟、著書等數多く列べられた中に貝原益軒に關係あるものは遺に最多く、その書簡のみにても五十二卷、一千通に上り、彼の尨大なる全集の中にさへ漏れてゐる著書も數編見受けられた。壬申紀行、江東紀行、西歸吟稿、音樂紀聞などがそれで、最初の二紀行は播、河、泉、賀、勢、甲、駿、江島、鎌倉、久能山、江戸等に遊んだ時の紀行であり、第三は江戸

より歸國する途上の詩稿、最後のものは假字文を以つて音樂に關する平易なる解說を試みたものである。當世紀聞と題する雜錄に秋月領內の人口、神社、酒屋、僧侶、神職等の數を統計的に示してゐるのは益軒の學風の一端も窺はれ、殊にそれが筆蹟の上から見て夫妻の書交ぜであることは更に興味をそゝつた。其他には馬琴の弓張月以下十四種の小說の版木がこゝに收藏されて居り、それが當圖書館の誇の一つとなつてゐるのも珍らしい。猶田島の彥山三所權現で發見された一人一字一切藏は大體正治から嘉祿頃のものであるが中に和勝元年八月三日なる日附は私年號の一例として注意される。シーボルトの「日本」以下の諸著書は着色の挿繪を有する點に於てすぐれてゐる。黑田家舊藏の慶長年間筑前國圖を始め博多古圖の二三もあつた。

伊東館長の東道で電車で筥崎宮に詣づる。神前で拜觀を許された寶物、古文書の中、醍醐帝の宸筆と稱せられてゐる有名な紺紙金泥の「敵國降伏」のあつたこと言ふ迄もない。元寇記念館を見てから再び電車で引返して玉屋呉服店の屋上より博多灣の地形を大觀した後、久留米行電車によつて太宰府に赴いた。

太宰府神社では心字池の畔、反橋の右手にある末社志賀社本殿は室町時代の建物で、方一間の極めて小さいものではあるが、樓門以下すべて新しくなつた今日では當社に於ける最古の遺物である。寶物館にはさして見るべきものもなかつたが、「(上略) 慶長五庚子年二月吉日九州總官大工平井大炊助藤原朝臣種重」の銘ある鰐口、觀應元年六月五日附一色道猷の寄進狀等は注意を惹いた。都府樓並安樂寺の古瓦もその美しい蓮花紋の故に一行の足をこゞめさせた。途次醫學博士戸上駒之助氏を訪うて所藏の賴山陽の書簡、享和二年文晁筆立原翠軒賛の關羽像等を見た。山陽の書簡は龜井昭陽に宛てたもので、彼れが京都に帷を下してから間もないものと見え東山鴨川の風月の氣に入つたこと、關西九州遊の門人數人にて漸く糊口の料を得て居ることなどが書かれてゐた。觀世音寺は神社より十町餘斜陽に映じた廢寺の感は深い。講堂といひ金堂といふも名ばかりで、小さな二棟の建物に聖觀音

像以下二十體に近い國寶の佛像が收められてゐる。中にも一丈八尺に及ぶ馬頭觀音立像、廚房守護神として尊崇された時代の古き姿を寫した大黑天立像の如きは殊に珍しいもので、かくまで多數の優秀な古佛像をこゝに見出したことは全く一行の驚異であつた。而かもその彫刻が手法に於て近畿地方で普通に見懸けるものと著しく逕庭のあるのは注意すべく、地方文化を考へる上に極めて興味ある暗示を與へるものであらう。都府樓の址は寺に隣り、平坦なる土壇の上、生茂れる草の間に横つた礎石によつてそれと知られる。礎石は徑三尺に餘り、三重の繰出しがあり、如何にも全九州を統轄して外交の衝に當つた大政廳の柱を支へるにふさはしく、その配置より見て其上の建物が七間五面であつたとが知られる。最後に水城の址を調査した。大道によつて南北に切斷された面に今尙ほ層狀があらはれてゐる。折しも寶滿山頂を出た十五夜の月は筑紫の野を辿る一行の頭に强く印象づけた。

廿一日、晴。當地の素封家許斐友次郎氏の宅を訪うてその祕藏にかゝる多數の珍什を閲覽した。寛政四年の銅

版世界地圖は東西半球の外側に桃、肉桃蔻、丁子、サフラン等の花や實を描いてゐる點が面白く、弘安、文明、天正等各年代の博多地圖は博多灣の地形の變化、並に港灣都市たる博多の發達經路を知る上に貴重なものである二月十五日附小西行長留守宅宛の秀吉の朱印狀に船賃名護屋まで百名につき十三石を仰出さるゝも、十五石にて平戸へ至るべき旨を記したのも面白い。その他では、油山より出土した多數の完全な經瓦經筒が著しく、中に保安元年の銘文の讀みうるのがあつた。多數の靑銅製のものゝ中に唯一つ高麗窯かと思はれる白磁のものはその文樣が宋風で希覯の逸品である。それらを見るにつけてもそこには中央の歷史に隱れた可なり高い地方文化が存在してゐたことを考へさせられる。龍と鳳凰とを刻した朝鮮風の石棺が豊後杵築から出たと傳へられて藏せられてゐるのも同じ意味で興趣が深かつた。

正午北九州鐵道によつて今津に向ふ。今宿に下車して徒歩二十餘町、今津村長牧園廣吉氏の案内で元寇の防壘を見る。本防壘は海邊砂丘の外側に連り、高さ約四五尺

幅員約一間。其規模もこより支那長城の比ではないが、關東の令一たび下つて、北九州の沿岸一帶に日ならずこの長壘を築き上げた當年の武士の意氣を思ふこと、元寇の大捷が決して偶然でなかつたことに思ひ當らせられる。所謂蒙古塚を見て大泉坊に至る。觀普賢經、無量義經、法華經等十數點の國寶の中、錢弘俶の八萬四千寶篋印塔は最有名である。文書には建武、正平等の年號のあるものがあり、又それ以後幕府と相當深い關係にあつたことを思はせるものも見受けられた。再び今宿に引返して伊東渡部二氏と分袂、汽車中の人となり、薄暮唐津に着いて晴芳館に入る。

廿二日、晴。早旦自動車を守つて名護屋に向ふ。城址は低い丘陵の上にあるが、天主臺址に立つて眺めると、加部島、加唐島は脚下にあつて自然の良港を形成し、壹岐も指呼の間にある。遠くは對馬と言はず朝鮮半島の島山迄も見ゆるかと思はれ、氣宇自ら浩大となつて、斯る僻土にその本營を定めた秀吉の雄圖を不可解とするが如きは全く實地を見ざるものゝ淺見であることを悟つた。もと豪所屋敷のあつたところと傳へる松尾氏の宅を訪ひ、古瓦その他の遺物を見、廣澤寺の蘇鐵を一瞥して後同じ道を唐津に引返し、午後零時五十五分唐津發の列車に乗れば六時間餘にして長崎に着き、福島屋に入る。

廿三日、晴。長崎に於ける第一の見學は縣立圖書館に於ける對外關係史料である。永山館長より一こわたりの說明を聽いた後、別室に案內されて一行の爲に用意された陳列品を見る。家康より下した御朱印船の御朱印奉書、鎖國以前邦人の用ひた航海圖等は貿易史料として興味深く、眞鍮踏繪、陶製マリヤ觀音、ころび宗旨改帳等は一こして禁敎迫害の昔を偲ばせぬものはない。出島圖並に唐人屋敷圖は共に寫本ではあつたが、一入の感興を覺えた。原城包圍陣形圖は戰後諫早茂敬が畫工に命じて描かせたものであらうといはれ、頗る精緻な構圖である。その他列品中特に注意を惹いたのは Manuscript たる英國軍艦フエートン號航海日誌、羊皮紙に記されてシールのある安政二年日蘭條約の原本、シーボルトの遺品といふ藥箱並に醫療機械、エゲレス語辭書和解七冊、淸文鑑

和解五冊、飜譯滿語纂編十冊等で尙文化文政天保の頃輸入された織物類の見本の如きも亦珍しいものゝ一つであつた。午後は更に書庫内の藏書に目を曝した。延寶四年以後慶應に至る諫早家日記、長崎奉行所の遺書、寛文六年以後の犯科帳など殆ど一室の大半を占めてゐる。

館を辭してから長崎市役所に市史編纂部を訪ひ、そこでは寛永延享等の古地圖等を見た後、高塔に登つて市街並に港灣の大觀を一眸の裡に收めた。それより市史編纂掛福田忠昭氏の東道で市中の史蹟を踏査する。最早く開けたこいはるゝ本興善町、大村町等を南に向ひ、通詞館の址、高島秋帆の宅址等を見、埋立の爲に昔の面影を失つた出島の扇形を堀割の石垣こ道わきの溝の緣に跡づけ、稅關前より海岸通を南に大浦の天主堂に至る。正面石階の上に高く立てる「日本の聖母」の像に所謂「日本に於ける公敎會の復活」の歷史、慶應元年三月十七日信徒發見の劇的場面を偲び、堂内に入ては跪いて祈を捧ぐる信者の姿に現實に强い宗敎的感銘をうけた。それより更に新地唐人屋敷の址を見て、大德寺より崇福寺を歷訪し、その純支那式建築を以つて一貫せるに驚嘆し、聖堂を見て後鳴瀧シーボルトの舊跡に我近世文明の恩人を弔つた。背後の唐土山に攀ぢ登つて東海、末次等の墳墓を展した時は暮色脚下に迫り、最後に春德寺に辿りついた頃は全く咫尺を辨ぜなかつた。此地はその昔敎會のあつた遺址である。展觀された古文書、古記錄の中、元祿頃のものかこおぼしき寺記に、書物改の記事のあつたのが殊に注意に上つた。是日、僅々半日にして長崎に於ける史蹟の要所を踏破し、到るこころその特異の情趣を味ひ得て、忘じ難い印象をこゞめた。

廿四日、晴。是日は恰も日曜にあたるので一行は未明に起き出で、市役所の好意で向けられた自動車を飛ばせて浦上天主堂に赴き午前七時からの禮拜を參觀する。東洋一を誇る大會堂に群集した善男善女無慮一千餘。その一つ心に捧ぐる熱烈な祈禱は一行の胸中に深い感激を喚び起さずにはおかなかつた。一時間の後、陳列室に切支丹宗關係の遺物を見る。有名なマリヤ十五玄義圖や法主グレゴリヨ十四世の記念銅牌等が特に目立つた。

そこを辭して一行は三菱造船所の副長工學博士元良信太郎氏の好意でさし向けられた二艘のランチに分乘し、波浪を凌いで遠く灣外の伊王島におし渡つた。島には小高い地點に天主堂が聳立し、その背後には一棟の女子修道院の設さへあつた。島の故老福島嘉平氏の宅を訪ねて、禁教時代の追懷談に一行の感銘を深め、同じく故老の一人村上寅藏氏からは「オラシヨ並ニヲシヘ」「長崎二十六使徒所刑記錄」等の寄贈を受けた。こゝに本行棹尾の壯擧も終結を告げたから、一行は午後二時二十五分長崎發の急行列車に乘込んで一路京都へと直行した。

一旬にわたる我等の研究旅行は連日の快晴に惠まれ、一行また皆恙なく多方面に知見をひろめて豫定の行程を終へることが出來た。これ全く行く先々で一行の爲に深厚の好意を寄せ、特殊の便宜を與へられた諸賢の賜物に外ならぬ。今筆を擱くに當つて衷心より深謝の意を表する。最後に我國史專攻學生の研究旅行が年を逐ひ回を重ぬる毎に、彌益有意義ならんことを期して、谷川茂次郎氏の多大の援助に酬いたいと思ふ。〔柴田〕

◉前田家尊經閣叢刊の發行

前田侯爵家の尊經閣が希覯の藏書に富むは累世の蓄積に依ることは言ひ乍ら、別して綱紀の好書と蒐集とが最も與つて力のあつたことは周知の事實である。然るに侯爵利爲氏は深く往年の震火災に鑑み、公益法人育德財團に託して其珍襲の祕籍から若干種を選拔して連年これを複製し、尊經閣叢刊と稱して專門諸家圖書館等に頒たることゝなつた。昨年頒布されたのは古語拾遺一卷と色葉字類抄上下二冊とである。前者は「元弘四年三月廿六日於金澤稱名寺書寫並交點畢」との跋語のあるもので、其古さに於ては嘉祿元年書寫の奥書ある京都吉田子爵家のそれに次ぎ、系統は所謂伊勢本に屬し、これを卜部本に比較すれば字句の異同を見受けられ、傍訓にも面白いふしがある。後者は中卷を佚して居るけれども、治承養和の間の古抄本であるから、選述の時代と餘り隔つて居らぬ。今これを玻璃版刷に上せて製本の體裁迄も粘葉綴に似せてあるのは原本を偲ぶに充分である。而して各本簡明な解說が附せられて居るのも用意周到である。近來

古書の複製が相次ぐけれども、今後尊經閣の豊富にして貴重な佚書が續々刊行を見るに至つたならば、國家文運に寄與する事の多大なるは言ふ迄もない事であつて其恩澤に浴する學界は深く侯爵の盛意を德とするであらう。

◎清原貞雄氏學位授與

京都帝國大學文學部史學科出身清原貞雄氏は「德川幕府の神社制度」と題する論文を提出中であつたが、文學部教授會では其價値を認めて學位授與の資格ありとの決議をした結果、昨年八月二十二日附で文學博士の學位を授與された。

◎史學研究會

大會　昨十五年十一月六日京都帝國大學樂友會館大講演室に於て開催、先づ西田庶務擔任より會務會計の報告ありて後左の三氏の講演あり、その間評議員の改選を行ひしが、全部重任となれり。

切支丹及び一向宗徒の異安心　長沼賢海君

切支丹一向宗徒等總て他力宗教徒の持つ信仰の誤解に就て述べん。一向宗徒は彌陀信仰による惡人往生の思想の故に佛前に邪淫を行ふも恐れず。この事が淨土、眞宗の隆盛に力ありしと思はる。切支丹宗徒も同樣懺悔告白に依り死科を免れ得と信じ懺悔の後も尙惡を改めず。これ同樣その早き傳播の原因なるべし。正き他力宗教は罪を自覺して再び犯さゞる惡人の救ひを說くものにて幾度惡をなすも救はるてふは信仰上の異安心と云べし。尙救罪の報恩の爲法主に與して領主に叛く事あり。これ一時的異安心と云ふべく領主が此を禁止するは當然の事にて德川家康が一向宗同樣切支丹を禁ぜしは必ずしも非文明的と云ふを得ず云々。

歷史の研究　文學博士　新見吉治君

本號に掲載せられたるを以て略す。

ビヨルケの密約　文學士　齋藤清太郎君

一九〇五年三月の Tangier 事件後幾ばくもなき七月の末、ビヨルケに於て獨逸皇帝が露國皇帝と密約を締結せし事件に就いては、最近の Die Grosse Politik その他の

史料發表によりて大いに明かにされた。この密約に先立つて前年秋、日露戰役中にある露國皇帝に對して、獨逸皇帝は宰相 Bülow 及び Holstein と諮つて獨露佛の三國同盟案を提議した。これ最近成つた英佛協商を破壞せんとする意志より出たものであるが、この際對佛關係に於て、獨露兩皇帝の意見一致せず、交渉は立消えとなつた。然るにその後、露國は海陸共に日本の爲に破られ、しかも國内に革命起るに至つた。獨逸皇帝はかゝる露國の窮狀に乘じ、ビューロー等に諮らず獨斷にてビヨルケに赴き、七月二十四日露國皇帝のヨットの船室にて獨露間の密約を成立せしめた。然るにこの時の密約の内容は、前年の交渉に於るものと異り、相互の援助地域を歐洲に極限した。これに對し、獨逸が英國と若し戰ふ時露國をして印度をつかしめんとする宰相ビューローは大いに反對し八月三日に至りて辭職を申し出でた。獨逸皇帝大いに驚きビューローに百方陳謝す。然るに九月五日にポーツマウス條約を締結した露國はその後、佛國の態度不明に名をかつてビヨルケの密約實行を無期延期とするに至り、獨逸の獨露佛同盟の計畫は失敗に歸した云々。

午後六時講演終了、晩餐會を開き終つて内藤博士、原隨園學士、杉本直治郎學士、中原與茂九郎學士等の小研究の發表あり、新村博士の談話にて閉會した。時に午後九時半頃なりき。當日の一般聽講者は二百餘名に達し、講師も九州、廣島、東京と他方面を網羅したりしかば、當夜黑板博士より將來各大學聯合の史學大會開催の提議ありしも意義あることゝ思はれたり。翌七日には豫定の如く會員一同に二條桂兩離宮の拜觀を許されたり。

●讀　史　會

例會　昨年九月二十五日午後六時半より樂友會館第五號室に於いて開催。三浦教授、中村講師以下二十二名來會、左記の講演あり。十時散會。

平安朝末期の國民思想に就いて　藤　直　幹君

平安朝末期には國民思想の上に貴族的なるものに對する平民的思想の勃興あり。佛教思想、物忌思想その他に就いて兩者の間に極端なる相違を生じ、後者の健全にして明き精神生活の中に武士道の萌芽を見る。この思想界

の動搖はまた當時の社會秩序の混亂と相應するものにして、新興階級と共に勃興せし新精神は我國民思想史上に大なる光明を投ぐるものなり云々。

德川中期の農民

岸本準二君

德川時代を通じて農民の間には階級的に地理的に移動あり。封建的制度の下に於いて階級の別は嚴重なりしにかゝはらず經濟生活の向上と欲望の增大とは農民をして町人に轉ぜしむることゝなり、その結果農村は荒廢し經濟生活に重大なる影響を及したるを以つて、爲政者はしきりに歸農を奬勵せしがその效果は少かりき。同一の現象は地理的には都市集注の傾向として現はれ、都市と農村との間には絕えず一方的交通が行はれしが、鄕村と鄕村、國と國との間の移動は少かりき云々。

高知の二日

文學博士　三浦周行君

八月中旬高知に二日の滯在中その附近史蹟を調査せしが、先づ土佐神社の社殿の建立年代に就き、一部建築史家の間にはその樣式の上より、之を室町桃山の過渡期のものと推定せる者あるが如きも、そは桃山時代なるものを餘り狹く考へたること、中央と地方との文化の差異を全然無視せる議論にして信じ難し。浦戸港は海岸線の變化甚しけれども尙ほ中世期港灣の面影を存す。又堺港との關係は注意すべく長曾我部元親は堺商人宗喰某によつて信長に款を通じ、山內氏も堺商人によつて最も殷賑なる堺町を開きしことあり。山內家には天正以來同國檢地帳が殆ど完全に保存せらる云々。

例會　十月二十九日午後六時半より樂友會館第五號室にて開催。出席者十九名左の如き講演あり、十時前散會す。

朝倉氏と吉崎坊舍

小葉田淳君

蓮如の吉崎坊舍建立は其の施主等に就き說あるも當時越前北部に勢威を爭へる朝倉甲斐二氏の消息は猶吟味すべき要あり。朝倉始末記及び諸種の蓮如上人傳記等に考證すべきものありて五帖御文に說くもの敏景十七箇條と通ずる點あり。尙この關係は更に一向一揆てふ事變を明かにし吉崎と相對的關係を有する豐原平泉寺以下の歸趨往來をも究むべきを述べ是等の點より寧ろ朝倉氏吉崎坊

の關係あるを認むる方穩當なりと結ぶ。

佐賀藩藏屋敷の文書記錄について

商學士　佐古　慶三君

最近新に入手せる佐賀藩藏屋敷の文書記錄類は元文二年に書改められしもの、頗る完備し年代の上よりするもその性質よりするも研究に便にして、藏屋敷の組織機能等從來疑問の諸點を明かにしうること少からずして、先づ留守居、米方、名代、掛屋等諸役人の職掌性質を究め米買の實況を詳說し普通に米切手は一枚十石の定なりとせらるゝも必しも常に然らず一枚二百石のものさへありて實物を例示す。

例會　十一月二十六日午後六時半より樂友會館第五號室にて開催。出席者三浦教授藤井中村講師以下二十三名十時散會す。講演左の如し。

日韓古代佛敎

三品　彰英君

日韓兩國の古代に於いて佛敎信仰に先つて存したる固有の信仰を見るに日本にては早く國家的統一と共に信仰上の統一完成せられしが、三韓諸國にてはその統一なかりき。故に佛敎渡來に際し日本にては大なる衝突ありしにかゝはらず三韓にてはたゞ新羅に於いて小問題生じたるのみにて他は之を歡迎せり。又日本にては直に國家的信仰となりしが新羅百濟等にては先づ民間の巫覡の信仰と結附きて行はれ、後政治的事情より漸次國家的信仰となれり云々。

支那旅行談

橋川　正君

十月一日より往復約一箇月間支那旅行中の見聞につきて北京なる清王宮は今三つの博物館になり、藏品に富み割合によく整理せられ、設備も亦整へり。北京大學にては國學門の事業として明清時代の史料を蒐集整理しつゝあり、考古學的遺物多き中に我國には未だ紹介せられざる山西興化寺の壁畫あり、南京明州等に我國佛敎と關係深き寺院を訪ひし中に杭州清慈寺の裏山にある日本人の墓三四十基は足利時代留學生のものなるべく、研究の價値あるが如し云々。

境爭論

文學士　中村　直勝君

本號研究欄に揭載せるを以て略す。

大會　十二月四日正午より樂友會館樓上大講堂に於て第十七回創立記念大會を公開せり。今回は明治維新史に關する講演と關係史料の展觀を行ひし爲め世間異常の興味を喚起せしが如く、會衆は忽ち堂に溢れて文字通りの立錐の餘地なき盛況を呈し、早くも一時過には入場を謝絶するの已むなきに至れり。しかも通路を塞げる多數の會衆は起立の儘最後迄熱心に靜聽を續けたり。午後六時豫定の講演を終へたる後、會員の晩餐會を催ふせるに、遠近より來會するもの四十三名、食後更に席を改めて茶話會を開き、交々起つて感想を披瀝し、十一時に至りて漸く散會せり。講演內容の梗概左の如し。

明治初年の民事裁判

法學士文學士　牧　健　二君

本誌に載せられたるを以て略す。

明治風俗界の波瀾　文學士　江　馬　務君

明治維新は政治上の大變革なりしも風俗史より見て急激なる變革ありしにあらず、明治風俗史の起原は外國模倣が外人との接觸の爲深刻となりし安政元年に始りその特色は外國の模倣にあり。これが明治風俗の基調をなし衣食住、交通、歌舞、音樂等種々の方面に就て法制的と個人の好尙とによる二方面の模倣が行はれたりしが、その反面には舊物破壞の運動もありき。然し其中にも舊物の踏襲されたるもの、一度衰へしものゝ再興されたるがあり。更に今迄に全く無かりしものにて我國風に合ふ樣に新に制定されたるものもあるなり。此間日本的なるものを保たんとする保守風と西洋文化を模倣せんとする進取風の二方面のありしを看取すべし。この相反する二分子が互に調和されずに混在して波瀾を起し居れるが明治風俗界の特徵なり。然しこの西洋風の分子は嘗て奈良時代に見えた支那風が藤原時代には全く影を消したると同樣遂にはその跡をとゞめざる時が到來すべし。要するに明治時代はこの兩者の化合のための過渡期の準備の時代と見るべし云々。

明治初年の國體擁護運動

文學士　藤　井　甚太郎君

本誌に掲載せられたるを以て省略に從ふ。

明治初年の諷刺畫　文學博士　西田直二郎君

從來諷刺畫は餘り注意を惹かず美術家も之を以て外道中の外道とし、歴史家、風俗家も亦然り。然し Riehl は之を以て文化史の材料と見、時代の心をその中より汲まむとせり。西洋の Caricare の元義は「或部に重を置く」の意味にして、或部を擴大したる意識的不調和が諷刺畫の要素なり、Caricare が時代の精神特色を捉へ之を擴大したるものとすれば、時代精神を見むとする歴史家が之を採ることは至當なり。我が國にては昔より言語上の諷刺あり、繪に於ても自然的描寫叙述にて幕末に於ける自覺的なるものと類を異にす。諷刺畫は精神の暢達發展に伴ふものにして、西洋に於ては文藝復興期就中英國に於て奈翁戰爭後の急激なる發展は愛國的熱情、恐怖、敵愾心に伴ひ、我が國にては德川期の階級的壓制に對する皮肉なる心理が諷刺畫中に表はれ、その內容は政治、外交、社會等雜多なるものを含む。その晴朗愉快樂天的のほのかなる表現は國民的性情を示し、極端なる殘酷性の如きは見ること能はず。之を通じて、一般民衆の歴史意識は「歴史は繰返す」との觀念を有し、過去の歴史事實に依つて現在事實を把捉し、飜譯せるものなりとて政治外交社會の各方面に亙つて多くの例證を擧げて說明さる。

明治史の暗黑面　文學博士　三浦周行君

明治時代の我國文化の進步は世界的の驚異なるが實は過渡期の動搖時代裡の暗黑面を有しゐたれば、眞に明治史を理解する上にはこの方面の研究亦缺くべからざるものあり。只在來の史料に依りてはこれに關する正確なる知識を得ること難しとて太政官監部課の探偵書なる民情視察報告を紹介し監部課の制度を說き、次に佛蘭西大革命のジャコベン派の密偵を引證して維新の如き急激なる變革に依りて人心の安定を缺くの際にはその密偵の裏面に活躍するの當然なることより當時中央地方を通じてこれを利用せる事實を述べて、本論に入り、明治の初年以來異れる主張の軋轢のために改革の一路を辿り難かりし事情を細叙し中央政府の施行方針の矛盾縣令と參事、縣官と人民との疎隔、縣官の素行、商人との結託、士族の固陋、新政に對する民間の誤解、學校、病院、敎化、社會等の

開化的施設に對する不平、失意者の不穩行爲等に關する調査報告の內容を列擧し、當時の如く朝野の間に踰え難き溝渠を生じて相互の諒解を缺き且つ言論の自由もなかりし時代にありては此種密偵の報告が政府の施政方針の確定に非常に役立ちしものなるを說き。かくて暗黑の時代を過ぎて漸次輝かしき明治文化の途を辿るに至れる經路を詳叙せらる。

參考品は二室に陳列されたり。第一室には主として維新史料編纂事務局及び京都市戶田隆介同伊藤善五郎兩氏の出品にかゝる明治維新前後の諷刺畫を五區に分ちて陳列せり。第一區は歷史的事件に假託せる版畫にして天窟戶開が明治維新を、源義家奧州征伐が明治元年奧州征伐を示せるが如し。就中、天窟戶開の勇神手力男命が維新の雄藩薩摩を意味しその他衣服の紋を以て各藩を現せるは面白し。第二區は政治殊に朝幕關係のものにして屁合戰にては芋を以て薩摩にたゝへ諸色大合戰にては朝廷方幕府方をその地の產物を以て現せるものあり。第三區は外交關係諷刺畫にて橫濱外人遊興の滑稽なる畫面の外に讀賣雜集の面白きものあり。第四區は社會的事實の諷刺畫にして例ば富士諸人參詣圖にては諸物品を現せる人間が富士登山によつて物價の騰貴を意味し又は諸色峠谷底下りは人物の墜落にて下落を示せるが如き日本人のユーモアを知るに足るものあり。第五區は幕末及明治における戲畫的事件及資料にして、新令五十五ヶ條圖解にては新時代の變化を面白く圖解し安政大地震文久痲疹流行の漫畫化されたるもの等あり。外に明治初年ロンドン時報よりの都おぢり、シルクハットの有樣など示されフンベルト日本誌よりも珍奇なる風俗が紹介されたり。

第二室は國史研究室の所藏にかゝる明治初年の神祇官太政官諸省等のアルヒーフにして、第一區には江馬天江の加筆ある明治改元詔書案(江馬務氏藏)を始め、明治元年の明治天皇卽位禮沙汰書。諸藩の宮門警備に關する御沙汰書案、同二年の外人保護に關する御沙汰書(近衞家寄託)太政官監部課各縣探偵書朝鮮近情探聞書(七年)等あり。第二區には楠社祭記錄(四年)、楠社次第(五年)其他の神祇官關係記錄、大隅國五平山陵造立目論見書、(七

年）同繪圖等の教部省關係のもの。明治八年の皇子降誕諸式取調書（八年）皇族葬式取調書（十六年）勳一等賞牌圖式手續（七年）及賞牌圖羽前湯殿山社格決定記錄（七年）等の太政官關係のものあり。第三區には同じく太政官修史館編纂編年史草稿、修史館關東地方史料採訪日記草稿、明治史要編纂關係記錄（十三年）等の外に華族制度改正に關する德大寺宮內卿意見書（十年）露國公使拜謁記事、（十二年）明治十年戰役關係記錄、明治八年地方官會議終會臨幸記錄等の式部寮及び式部省關係のものあり。第四區には明治八年同十一年の地方官會議關係記錄等の內務省關係のもの。筑摩縣家畜流行病につきての御雇教師テニーッ意見書（六年）等の文部省關係のもの露國皇太子アレキシス殿下來朝記錄（明治五年）。小笠原島の所轄の決定を望む寺島外務卿の意見書（六年）外務省豫算表等の外務省關係のもの陸軍省雇教師佛人ホーコンネに賜へる明治天皇の勅語案（十二年）等の陸軍省關係のもの、橫須賀造船所改革記錄（八年）等の海軍省關係のもの、違式註違條例改正關係記錄（六年）等の司法省關係のもの。新紙幣發行記錄（四年）金祿施行の方法取調書（八年）地價百分一稅更正につきての大隈大藏卿伺書（七年）等の大藏省關係のもの等あり。其他明治二年大村兵部大輔旅寓へ致亂入候暴人吟味書（京都府廳藏）井筒屋及伊太利商人ジョウヴンニ、チゼタ間蠶種紙賣捌契約書（日伊文二通）。明治七年の英一番館東京淺草御藏火事請負書（古河市兵衞宛香港火災保險會社保險證書）。小野組番頭奥村佐兵衞洋行中通信及旅費勘定書（明治五・六・七年間）等の珍貴なる史料が多く陳列せられたり。

◉第十二回京都大藏會

昨年十一月七日午前九時より寺町五條延壽寺に於て、京都佛教各宗學校聯合會主催の下に第十二回大藏會が擧行され主として禪籍を陳列して一般の觀覽に供された。第一門を書籍、第二門を墨蹟と二大別して更に第一門を第一項語錄（三十四點）第二項史傳（十一點）第三項文集（六十點）第四項禪鈔（三十五點）第五項雜類（二十數點）に類別し、建仁、大德兩山、久原文庫を初め諸山禪家等に藏する所謂五山版の代表的逸品並に古寫本が多數展觀さ

れた。殊に兩足院珍襲の佚書が始めて少らず出陳されたのは學界の爲めに喜ばしい事である。右の中第二項の元亨釋書(東福寺藏)を虎關自筆と傳ふるは其儘にうけ難いけれども、足利初期を下るものでなく、一休和尙年譜(大德寺藏)の寫本は、第三項中の一休自題狂雲集(同寺藏)や祖師傳並疏語を收むる拔書及び足利初期の作にかゝる拈香下火集(以上兩足院藏)諸入寺法語(大谷大學藏)と共に感興を惹くものである。第四項禪鈔類中名僧の書入本、漆桶萬里自筆の帳中香、第五項の宗派圖(兩足院藏)が元和三年の木活本たる點、第三項の東海瓊華集、東海璠華集(兩足院藏)小補東遊集半陶稾(大谷大學藏)は桃源の文明十一年五月十一日南禪寺堂頭宛書狀に亂中十餘年隨從せることの見えたるもの(慈照院藏)と共に、足利時代の史實を多く包含するものであゝ。榮西の出纏大綱(龍谷大學藏)が永仁二年卯月十五日の跋ある、同釋迦八相語(同寺藏)が建武四年三月十九日(花押)の跋ある假名交り延書本で書風の本願寺系なる等亦書史學上希覯のものである。

第二門に於て聖一國師常樂菴規式(東福寺藏)が弘安三年六月三日、大燈國師投機頌(大德寺藏)が延慶元年師の二十七歲といふ如く年代の的確なる、妙澤筆の不動像(慈照院藏)其他祖元、白雲、疎石、一休等の墨蹟とりどりに面白く肖像では應永九年明應贊黃龍像、竺雲贊仰山(天龍寺藏)が最も光つて居た。午後一時から同寺延壽會館にて、吉澤義則博士「抄物の言葉に就て」、三浦周行博士「臨濟禪と中世文明」の講演があり、盛會裡に五時散會した。〔井川定慶氏報〕

●歐米史界雜俎

萬國史學協會の設立　最近の歐米史界に於て最も注目すべき事實は、萬國史學協會の設立である。歐米諸國の史學協會をすべて綜合した國際的史學協會を作らんとの希望は、從來各國に於て存在して居りながら、種々の事情に阻止されてその實現の機を得なかつたのであるが最近の政治上に於けるコスモポリタニズムの傾向に刺戟されて、遂に昨年五月を以てゼネバに於て、その設立を見るに至つたのは、西洋史學界にとつて誠に賀すべき事

こ云はなければならない。事のこゝに至つたに就てはかの一九二三年のブルッセルの史學大會に於てアメリカ人からの提議が與つて力あるものこ見なければならない。ゼネバの大會に招待された二十七國の内で二十一國までがそれ〴〵委員を出し、歐米諸國の殆んどすべてが代表されて居るがたゞソビエト政府がその代表者を出さなかつたのは遺憾こすべきである。今、同協會の役員組織を見るに、Koht (Norway) が會長、Pirenne (Belgium) Dopsch (Austria) が副會長の位置に就き、Dembinski (Poland) Meinecke (Germany) de Sanctis (Italy) Temperley (England) 等が顧問員こなり、會計は、W. G. Leland (America) が、一般事務はLhéritier (France) が掌るこゝになつて居る。アメリカ史學協會は、そのロックフェラー基金より毎年二萬五千弗を五年間本協會に寄せ、伊太利政府も同じく經濟的援助を約したこの事である。本協會は假にその本部を Washington に置き、國際的史學雜誌を毎年發刊する。これは獨逸の Jahresberichte der Geschichtswissenschaft. 及び佛蘭西のAnnuaire international des sciences. historiques. の繼續こ考ふべきものである。尚ほ次の大會は一九二八年ノールウエイのOsloに於て、一九三三年ワルソーに於て開かるべきこゝも決定された。

Comite francais des sciences historiques. の設立　本協會は昨年四月の設立で會長は Glotz, 副會長は P. Fournier, C. Pfister 氏である。而して協會は個人をその會員こするものではなくて、佛國内に於ける種々の史學上の協會を會員こするものである。即ちこれによつて佛國内の多數の史學協會は完全に統一されるこゝなるから、佛國史學の發展に貢献する所大なるものがあらう。

獨逸歴史家協會、獨逸歴史教師協會、教會史協會、地方歴史出版組合等の會合　此會合は昨年十月四日より九日に亙つてブレスラウに於て催された。就中重要なるは歴史家協會のである。これは、六日より八日に亙つて開かれ各一日を古代、中世、近世に充てゝ、多數知名學者の講演を聽いた。猶ほ上述の萬國史學協會への獨

逸の加入に就いても種々の議論が行はれた。

Instituto Giovanni Treccani の設立　伊太利に於て設立された本研究所では、三十二卷より成る伊太利百科全書を編纂する由。

Encyclpedie del Islam の刊行　回教文化に關する重要なる出版事業たる本書の刊行は最近大いに進捗して、一昨年その第三十卷（Kaplan—Kasam）が出版されたが、尙ほ別にSの部の三卷が一昨々年より一昨年に亙つて出版された。今後モロツコの Institut des Hautes-Etudes の會長たる H. Basset 氏が、本出版事業を主宰するとのことであるから、一層出版の促進を見るに至るであらう。因みに、本書の佛國版の發行所はパリーの Auguste Picard 書店である。

Dietrich Schaefer 教授の著述全集　獨逸史學界の耆宿たる同教授は一昨年五月十六日を以て、その八十歳の誕生日を迎へたが、ベルリン史學協會は同氏の史學界に對する貢獻に報ゆる爲に、同氏の著述全集を出版した "Dietrich Schäfer und sein Werk".

Ipek の創刊　ケルン大學教授 H. Kühn の指導、多數學者の協同の下に、標題の考古學的雜誌（每年二回）が創刊された。第一卷は、Kühn 自らの執筆に係る Die Bedeutung der praehistorichen und ethnographischen Kunst für die Kunstgeschichte を掲載してゐる。（Leipzig, Klinkhardt und Biermann 書店）

史學大家の逝去　佛蘭西に於る有名なる東方學者 Bénédite, Casanova の兩氏の逝去、三月二十三日エジプトに於て逝去した。ベネデイト氏は、約三十年間カイロ考古學協會の役員として活動し、最近には Collége de France に教鞭を取つて居たが、遂に昨年春のエジプト旅行にて日射病の爲に溘沒したのである　カサーバ氏は Collége de France のアラビヤ文學の教授として著名であつた。

ロンドン大學教授 Sidney Lee 氏は昨年三月三日に逝去した。享年六十六歳。ヴイクトリア女皇及びエドワード七世の傳記（第一卷のみ出版）の著がある。氏が特に英國史學界に致した最大の貢獻は Dictionary of National

Biography の編纂である。

最近獨逸に於て史學界に多數の名士の逝去を聞くは誠に遺憾である。その主なる人々を擧げるこ、ゲッチンゲン大學教授 Julius Hatschek 氏（英國法並びに英國憲法史の造詣深し）、イエナ大學教授 Eduard Rosenthal 氏、（歷史科學の研究に卓越し、また獨逸法學史の著あり）、プラーグ大學教授 Glorg Swoboda 氏（歷史家こしてのみならず文獻學者こして有名であつて、ギリシア國法史の著あり）、Richard Sternfeld 氏（最初中世研究をなし、後ラテン民族特に十九世紀の伊太利史の研究に沒頭した。氏の伊太利統一史、カブール論は有名である）。等である。

〔以上大村〕

會報

◎寄贈交換圖書

栃木縣に於ける指定史蹟	內務省地理課
滿鮮地理歷史研究報告　第十一	東京帝國大學文學部
史學　五の四	三田史學會
民族　二の一	民族發行所
Toung Pao(通報) Vol. XXIV. 2. 3.	Paul Pelliot
人類學雜誌　四一の一〇	東京人類學會
經濟論叢　二三の五六	經濟學會
史學雜誌　三七の九、一〇	史學會
東洋學報　一六の一	東洋協會學術調査部
歷史地理　四八の四、五、六	日本學術普及會
考古學雜誌　一六の九、一〇、一一	考古學會
龍谷大學論叢　二六九、二七〇	龍谷大學論叢社
國學院雜誌　三二の九、一〇、一一	國學院大學
中央史壇　一二の七、八、十、十一、十二	國史講習會

伊豫史談　四七　　伊豫史談會
山口高等學校歴史教室陳列目錄　　同　教　室
佛教研究　七の三　　大谷大學佛教研究會

◉會員動靜

■入　會

東京市外野方町下沼袋一六三三　　河野　伴香氏
（右紹介者　武田孫一郎氏）
奈良市　　東大寺圖書館
（右紹介者　上田三平氏）
大阪市住吉區阿部野町一一三の一　　齋藤　湊氏
（右紹介者　新町德之氏）
堺市向陽町　　岡村善太郎氏
（右紹介者　出口勝行氏）
東京市麴町區一の四六、二松學舍　　小野　均氏
東京市本郷區森川町一、栴檀寮　　井手　一馬氏
（右紹介者　大久保利謙氏）
東京市下谷區上野櫻木町九、東漸院　　筑土　鈴寛氏
（右紹介者　長澤德玄氏）
東京市外中野町一〇三二　　岡田　太郎氏
（右紹介者　竹岡勝也氏）
東京府荏原郡平塚町戸越一三四三　　池田　醇一氏
（右紹介者　松本芳夫氏）
朝鮮全南是城郡黃龍面黃龍里　　金　永　厦氏
（右紹介者　李能和氏）
神戸市永室町一　　香川　禎三氏
（右紹介者　岡村美太郎氏）
東京市外代々木初臺五三九　　原田　亨一氏
（右紹介者　三浦周行氏）
京都帝國大學文學部史學科學生　　布村　安弘氏
（右紹介者　山根德太郎氏）
京都帝國大學文學部史學科　　津田　巖氏
同　　平井　謙三氏
同　　石橋達一郎氏
同　　戸倉　廣氏
同　　赤尾　藤市氏

同　　中村　秀雄氏

京都市上京區中筋通石薬師上ル、丹羽方　野中　健一氏

（右紹介者　島田貞彦氏）

■退　會

上田駿一郎君　布川豊君

■逝　去

細田　禮行君

謹んで弔意を表す